

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『愛情を持って明るく楽しくともに笑える毎日を過ごします』を理念として掲げ、苑内に掲示し、職員の意識を高めるように努めている。	
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝の勤務交代・申し送り時に職員は理念を唱和し確認している。また、日々意見交換を行いながら理念を実践できるよう努めている。	
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	ご家族の来訪時や町内、苑内のイベント参加時等、折に触れて日頃の実践を伝えるようにしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日頃の挨拶はもとより、ゴミ出し、近所の公園への散歩など外出の機会を増やし、少しでもご近所の方との接触の機会を増やせるよう努めている。	○ 地元の民生委員の方や自治会の方からも情報をいただきながら、なにか取組めるものはないか見つけることができればと思う。
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内の方には町内行事の招待状を持ってきていただき、町内会の一員として町内行事に参加できる機会を得、入居者、職員とも積極的に参加している。	○ 地域の方々と交流はあるものの、グループホームをもっと理解していただくための働きかけができればと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>当苑を認知していただくべく地域行事に参加させていただいているが苑主催でのイベントの開催などは行えておらず『貢献』までには至っていない。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価後のミーティングの議題として取り上げ、改善事項を検討し、実践に活かそうとしているがまだ十分とはいえない。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催を目指しているが、半分も実現できていない。メンバーが揃わないことが一番の原因である。。</p>	<p>○</p> <p>少なくとも開催案内だけは積極的に行いたい。形骸化しないよう議事についても工夫していきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外に市町村担当者との交流はない。社会福祉協議会の方には月に一度来て頂いている。入居者の声を拾い上げてあいだき情報交換をおこなう中でヒントをいただきながらサービスの向上に繋がられるよう取組んでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>社外研修会に参加し、学んだことをスタッフ間で共有できるように苑内での勉強会を開催した。現在、利用している方もいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も必要に応じ制度を活用しながら支援をしていきたい。また、講習会の参加により更に理解を深めたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期ミーティングで実態チェックをおこなっているが、苑内研修を行いながら虐待なしの徹底に努めている。</p>	<p>○</p> <p>現在まで虐待の実績はないのでこのまま継続していきたい。虐待防止についてさらに理解を深めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時とも保証金返金も含め十分に説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より利用者との会話を行う中でも聴きだすように心がけている。また社会福祉協議会の方に月に一度来ていただき、利用者の声を拾い上げていただいている。</p>	<p>○</p> <p>意見、不満、苦情を積極的に取り込みサービス向上に努力したい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族と連絡を密に行い、健康状態など報告している。金銭管理についてはご家族来訪時に出納帳等確認していただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、また少しでもご意見をいただけるようご家族来訪時には声かけを行っている。</p>	<p>○</p> <p>どのような小さな案件でもサービス向上の材料として取り入れていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期ミーティング時に意見、提案を行える機会を設け、改善に向け必ず何らかのアクションを起こしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じたシフト変更ができるよう、職員確保および体制ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動はない。離職については最小限に抑える努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>能力以外の理由で対象者から排除することはない。社会参加、スキルアップの機会を与え、自己実現の権利を保証している。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>日常の業務の中及び定期ミーティングの際に教育をおこなっている。</p>	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>シフトに影響がない限り社外研修には参加させている。</p>	<p>○ 研修受講計画を立てシフトに織り込みたい。</p>
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>積極的にはおこなわれていない。</p>	<p>○ 相互訪問を積極的、計画的におこない、サービスの質の向上を図りたい。</p>
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>他部門を含めた全社キャンペーンに参加させるなどしている。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>具体的施策はとっていない。</p>	<p>○ 定期ミーティングを活用して積極的に職員の要望、意見を聞き出したい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始時には必ずご本人およびご家族と面談し、じっくりと話を聴き、ご本人の望む生活ができるよう取組んでいる。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始時にはご本人およびご家族と面談し、場合によっては提案をさせていただく。安心していただけるようじっくりと話をしよう努めている。	○ 今後においてもご本人とご家族の『安心』をモットーに話を聴き込んでいきたい。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに合わせ、他のサービスが適切と思われる場合には紹介し、本人や家族の意向を確認した上で対応している。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居制度を設け、雰囲気を知っていただくために体験入居を推奨している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者同士がいたわり合う様子を見ることで元気をいただいている。洗濯物干しや配膳等を利用者といっしょにしながらゆったりとした時間を共有している。</p>	<p>掃除等苑内での関わりを深めともに過ごす時間を大切にしていきたい。</p>
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の意向を聞きながらご本人を支えていけるよう良好な関係作りに取り組んでいる。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>双方の生活歴、意見等を聞きながら、相互の良好な関係の維持に配慮している。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外部との面会時間や外出、外泊にも制限を設けず、本人の大切な関係を継続できるよう配慮、支援している。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>リビングを喜びや楽しみを共感できる場とし、同じ目線で声かけをおこない、一人一人が孤立することのないよう関わり合い、支え合いを多くするよう努めている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>特に積極的なアプローチは行っていないが、契約終了手続きの際にはその後も気兼ねなく相談していただけるよう声をかけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から具体的な暮らし方の希望を聞き出し、ご本人のペースにあった生活を送れるよう心がけている。	『ご利用者本位』での取り組みを続けていきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の面談や普段の会話の中から生活歴を探り、馴染みの暮らし方を尊重しながら親身のケアができるよう心がけている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者一人一人にきちんと向かい合い、ご本人にわかり易いことばや態度でコミュニケーションをはかり、要望をきちんと受け止めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間の意見交換、提携医療機関のアドバイスを受けながら、ご本人やご家族の意見、希望を入れながら介護計画を作成している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	立てた計画に固執することなく、利用者の現状、関係者の意見等を踏まえるなど毎月のミーティングも含め柔軟に対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子で普段と違うことや本人のことばや行動等を記録に残し、ケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況や要望に応じて、通院、送迎等、必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防関係者と避難訓練を行い、緊急時に備えている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外出等個別的な要望に応じ、可能な限りの支援をしている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいた際に相談させていただくことがある。	○	運営推進会議の開催頻度を上げていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診を受けている。ご家族の要望は適宜かかりつけ医に伝え、円滑な医療処置に配慮、努力している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期往診により常に利用者の体調をチェックしていただいている。その際には職員の疑問についても相談している。		
47 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医のみをお願いしている。		
48 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先はかかりつけ医の紹介によることが殆どである。家族のご意向を尊重してかかりつけ医との橋渡しを行っている。		
49 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ、個別で具体的な話し合いはしていない。	○	終末期についての話し合いはしにくい。ご家族のご理解を得ながらかかりつけ医との話し合いは進めておきたい。
50 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者の状態により今後よりよく生活できるようこまめにかかりつけ医に相談している。ご家族とも話し合いながら方向性を検討している。		
51 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居についてのメリット等を説明し、納得を得るよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ、記録には十分気を付けている。記録の保管にも気をつけている。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	あらゆる機会に、できるだけ多くの選択肢を設け、希望を表出しやすいように工夫している。『ご利用者本位』を徹底している。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活に求められる規律以外についてはご本人及びご家族の希望、ペースを優先している(規律は可能な限り排除している)。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向を重視し、時折、おしゃれについてのアドバイスをこなっている。理容は定期的に苑内で行っている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できるかぎり、準備、後片付けの機会を与えている。職員も必ず同じ時間に同じ物を食べ、話題を共有して楽しい食事の時間を創出している。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日頃の会話の中から嗜好を聞き出し、バランスよく提供するようにしている。	買物には拒絶がない限りできるだけいっしょに出かける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必ず排泄記録を取り、それを参考に排泄のタイミングを見極め、トイレ排泄を誘導している。失敗しても本人に気付かれぬようパット交換をおこなう等を心がけている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全を考慮して、一定の範囲で曜日や時間帯を決めている。夜間は行っていない。	○	たまの朝風呂など本人の希望がかなえられるよう早目に計画するようにしたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩など活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。夜間に眠れないなど不安定になっている場合は落ち着くまで話を聞くなど対応をおこなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、趣味、特技、過去の職業等により本人が持っている素養を活かした活動を促している。苑内における「自分の役割」を見つけ積極的に活動する利用者もある。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は所持していただいているが、そうでない方や家族の希望があれば管理者が管理している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内の行事に参加する、定期的に遠出する以外に、日常の買物にも誘い出している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	十分な個別対応はできていないが、近場の外出希望には積極的に応じている。	○	やや遠目の外出を年間行事として再度検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援体制は整えている。電話や手紙等について促しているが要望がない。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来苑できる雰囲気作りを心がけている。来苑時にはゆっくと談笑できるよう見守っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束厳禁は職員間で浸透している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関は鍵をかけないことにしており、自由に出入りできるようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者一人一人の所在を、監視されていると思われないよう注意しながら、常に把握している。夜間は適宜巡回し、安全確認を行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	要注意品(タバコ、ライター等)は目の届かないところに保管し、希望があれば職員随伴の上、取り出し、使用をしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人に応じた事故予測をおこない、対応策を常時職員間で確認している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>ミーティング時に座学で勉強しているが十分な実地訓練は行っていない。</p>	○	救急救命の研修を職員全員に受けさせたい。
73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>消防関係者を交えた定期的な避難訓練をおこなっている。</p>		
74	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>リスクについてはご家族に説明している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎日定時にバイタル測定をおこない、変化の早期発見に努めている。また、直ちに受診できるよう医療機関との連携を図っている。</p>		
76	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>医師、家族の指示に従い、また相談しながら服薬支援をしている。</p>		
77	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>適度な運動と水分補給に配慮している。必要に応じて個別の食事調整をおこなっている。</p>		
78	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯洗浄を実施している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取について毎日記録している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年11月には利用者(要家族了解)と職員の全員はインフルエンザの予防接種を受けることにしている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材の購入、管理をおこない、まな板や布巾も消毒をこまめにおこない、食中毒防止に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇の手入れが十分ではない。夏季は玄関扉を開放している。	○	ボランティア協力を得ながら、見た目にも安心感を持っていただけるように工夫していきたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内の対面キッチンの特徴を活かし、調理音、料理臭を身近に体感してもらっている。南側窓のカーテンは開放し、快適な季節感を満喫できるようにしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、テーブル、マッサージチェアを置き、また畳スペースも設け自由に利用できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの深い物、家族の写真、お位牌などを持ち込んでいただくなど、安心感のある居室作りを促している。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、玄関には竹炭を置き、換気は利用者に確認を取りながらおこなっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分な採光、バリアフリー、手すり設置など、気軽にひとりでも動き易いようにしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	対話の機会を多く持ち、自立、安心して暮らせるよう配慮している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	手入れのし易い花壇や、洗濯物を干し易い大きなベランダを設けている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

当苑リビングの南側ベランダ下には大きな池が広がり、季節の水鳥が戯れる姿、水面に映るきらきらした日差しが癒しの空間となっています。また、南側全面ガラス張り、その他の壁は檜張りの浴室からも同じ光景が眺められ、ゆっくり寛げる入浴タイムは利用者の楽しみのひとつとなっています。このような恵まれた環境の中、入居前は歩行意欲のなかった方も手引き歩行までできるようになったりと、利用者も職員と共に喜び、笑える日々を送れるよう支援しています。苑庭には家庭菜園を設け、利用者と職員が力を合わせ、季節の野菜を栽培し、新鮮な収穫物を日々の料理に取り入れています。当苑は前述のとおり自然環境に恵まれた所でありながらも閑静な住宅街に位置し、地域の町内会にも参加し、組長としてのお役をいただくなど地域の一員として認知されております。地域交流の場として町内行事には積極的に参加させていただき、町内の方々からも気軽に声をかけていただけるようになりました。介護施設ではなく、地域の中の一般住居の中での生活支援というグループホーム本来の意義を常に心がけ、型に嵌らない介護を通して、利用者ひとりひとりの暮らしぶりを応援しています。